

政務活動費 視察・研修会等 報告書

視察都市	石川県金沢市
視察日時	令和 5 年 7 月 5 日 (水) 10 時 00 分 ～ 11 時 45 分
訪問先	主計町茶屋街 〒920-0908 石川県金沢市主計町 ひがし茶屋街 〒920-0831 石川県金沢市東山
参加者	園田基博 人見武男 北川久人 石渡宏明 小島 強
視察目的	重要伝統的建造物群保存地区（金沢）における歴史的風致と 観光振興および観光資源化

■ 視察内容:

案内人：金沢観光ボランティアガイド「まいどさん」

ほっと石川観光マイスター 会長 櫻井 保明 様

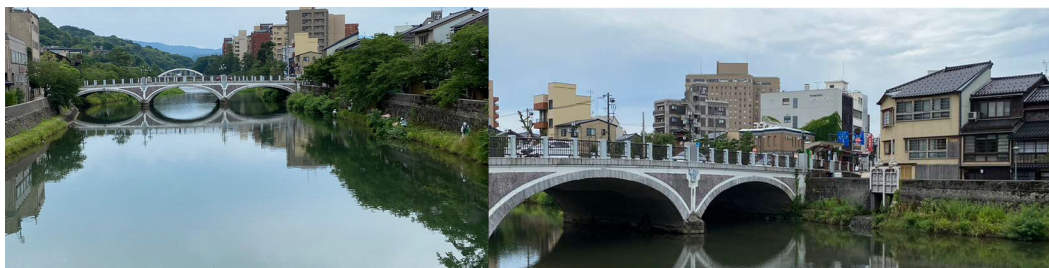
◎ 金沢市の概要:

- ・ 石川県のほぼ中央に位置。面積 467.77km²、人口 466,055 人
(2023 年 07 月 1 日現在) の中核市、保健所政令市、中枢中核都市です。
- ・ 1546 年、一向宗徒が金沢御堂と呼ばれる寺院を建立したことに始まります。
1580 年に金沢御堂が織田信長の家臣佐久間盛政に攻め落とされ、跡地に金沢
城を築城されてます。1583 年、前田利家公が金沢城に入城し、城下町金沢の
基礎が築かれます。
- ・ 4 つの伝統的建造物群保存地区が存在し、戦禍を逃れています。東山周辺の
主計町茶屋街とひがし茶屋街、卯辰山麓の寺院群、寺町台周辺の寺院群です。

◎ 主計町（かずえまち）茶屋街

- ・ 加賀藩士・富田主計（とだかずえ）の屋敷があったことに由来し、北国
街道が浅野川を渡る地点に架かる浅野川大橋の近くに位置します。明

治期には、1階に出格子を構え、二階の建ちが高い茶屋建築の町並みが残ります。明治後期から昭和初期にかけて、3階建てに増築される時代相をよく伝えています。前を流れる浅野川とともに良好な景観を形成しています。平成11年に、全国の初めて旧町名が復活した町です。



↑ 浅野川大橋（右側：主計町茶街）：百万石行列の前日夜には加賀友禅灯ろう流しも行われる情緒豊かな茶屋街



↑ 対岸からの主計町茶街



↑ 気軽に泊まれて情緒ある旅館



↑ 千本格子の庶民向け遊郭跡が続く街並み



↑ 中の橋



↑ 大通りに向かう坂の石段



↑ 裏道の狭い路地

◎ 金沢城西内惣構跡

- 1599 年、二代藩主・前田利長は高山右近に命じて、金沢城と城下の防備のため東西の内惣構を、さらに 1610 年、三代藩主・利常も同様の目的で篠原出羽守一孝(しのはらでわのかみかずたか)に命じて東西の外惣構を造ったといわれています。当時はどの堀も城側に土居を盛り、竹やぶを配していました。町役人が土居・堀を見廻り、堀中にゴミを捨てること、土居を崩すこと、竹木を伐採することを禁じていました。役割を終えた惣構の堀は、埋め立てにより狭くなり、まちなかを潤す用水として今日まで利用されています。



↑ 金沢城西内惣構跡

◎ ひがし茶屋街

- 1820 年城下に点在していた茶屋を加賀藩公認のもと浅野川の東と犀川の西に集め、新たに町割りが行われ、ひがし茶屋街ができました。この界限に、当時 90 軒あまりの茶屋が立ち並んでいたといわれます。その後、風紀の乱れから一度廃止されましたが、1867 年に再び公認されました。



↑ ひがし茶屋街の広見



↑ ひがし茶屋街のまちなみ



↑ 木虫籠 (キムスコ) : 出格子



↑ 江戸時代末期の町屋 (外観)



↑ 町家の内観



↑ 町家の内観



↑ 町家の裏手



↑ ひがし茶屋街の風景

◎ 公益社団法人 金沢ボランティア大学校

- ・ ボランティアに関する基本や幅広い視野を身につけ、福祉や国際交流、環境、地域づくりなどの 8 分野において、継続的にボランティアとして活躍できる人材を育成する目的で設立されています。現在、金沢観光ボランティアガイドとして 330 名程度が登録されています。
- ・ 講義時期は 5 月～翌年 2 月末日です。1 分野には、約 28 講座があります。1 講座は、90 分間、25 名で講義が行われています。およそ 28 講座を受講することで金沢でのボランティアガイドに参加できます。
- ・ 多くの受講生は、平日の昼間に仕事や学業などがあるため、講義日を毎週土曜日や平日夜間などに設定し、週一回程度の頻度で、公民館などで開講しています。
- ・ 講師は、ボランティアガイド、金沢市役所職員、大学教師が行い、ガイドに必要な知識、方言・特色などの文化や心構えなどの講義を行っています。

■ 視察成果による当局への提言または要望等：

人の往来数は異なるが、主計町茶屋街、ひがし茶屋街に共通していることは、情緒溢れる古い街並みの統一性が生み出す感動です。観光ガイドによる適切な説明が、より一層、歴史がもたらす風情、情緒などを引き出しことで感動を呼び起こされます。

ゆえに、伝統的建造物群保存地区としてよりよい街にするためには、町並みの統一性と散策するための道路は、重要であるということを再認識しました。

桐生観光ガイドの役割は重要であり、継続的な地域づくりために桐生の歴史や文化知ってもらうためにボランティア又はガイドの育成に関して、重伝建コーディネーターを活用しての街づくりと地域住民との連携ができる体制を要望します。

現在、産官民で協力して行われている未来創生塾のカリキュラムを活用して桐生の「日本遺産講座」を継続的に実施し、桐生ジュニアアンバサダーの認定制度があることは先進的な体制ですが、さらに、文化・歴史的遺産に興味がある方のために、金沢ボランティア大学校のような分野ごとの講座を受講できる制度を要望します。

以上